

# 愛・地球博記念公園

## 基本計画(案)

平成19年2月

愛知県建設部公園緑地課

# 目次

・	<b>計画の前提</b>	
1.1	計画の経緯と目的	2
1.2	公園の規模・位置	4
1.3	公園の位置付け	5
1.4	基本方針とその経緯	6
1.5	閉園前の公園と博覧会時の状況	7
1.6	博覧会前整備区域の概要	10
1.7	博覧会での取り組み	13
1.8	愛知の地域づくりにおける役割	19
1.9	懇話会の概要	21
1.10	県民意見聴取（アンケート調査）	22
1.11	パブリックコメント	24
・	<b>整備・活用の方針</b>	
2.1	計画の基本的事項	30
2.2	整備・活用の方針	32
・	<b>ゾーニング</b>	
3.1	ゾーニング	50
・	<b>整備内容</b>	
4.1	各ゾーンのソフト展開	54
4.2	施設計画	59
4.3	アイデアのひろば	60
4.4	主なひろばの整備イメージ	72
4.5	県民と行政とのパートナーシップによる 公園整備と管理運営	75
4.6	「サステイナブル・パーク」の実現に向けて	80
・	<b>全体計画</b>	
5.1	将来年間利用者数の想定	83
5.2	駐車場台数の設定	84
5.3	動線計画	85
5.4	ユニバーサルデザイン	87
5.5	自然環境保全計画	88
5.6	景観計画	90
5.7	植栽計画	91
・	<b>災害時における活用</b>	
6.1	災害時における活用	93
<b>【資料】</b>		
1.	「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」委員名簿・協議経過	99
2.	「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」委員名簿・協議経過	101
3.	「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」委員名簿	103
4.	開園の順番	104

## ・ 計画の前提

## 計画の前提

### 1.1 計画の経緯と目的

愛知青少年公園は、昭和45年の開園以来、青少年の健全育成はもとより、気軽に利用できるレクリエーションの場として幅広く県民に親しまれた。近年になって公園を取り巻く社会情勢は大きく変化し、少子化に対応する青少年健全育成環境づくりが重視されるとともに、ライフスタイルの多様化や高齢社会への対応、公園周辺の都市化にともなう防災機能の強化など、都市施設としての機能の充実が求められるようになった。

そうした中、「自然の叡智」をテーマに2005年国際博覧会「愛・地球博」が本公園で開催されることになり、これを契機として21世紀にふさわしい公園として整備を行うこととし、平成14年9月に都市計画決定を行った。公園の一部エリアは、博覧会後にも継続的に利用する恒久施設として、博覧会の会場づくりと連携しつつ博覧会前に整備を行った。

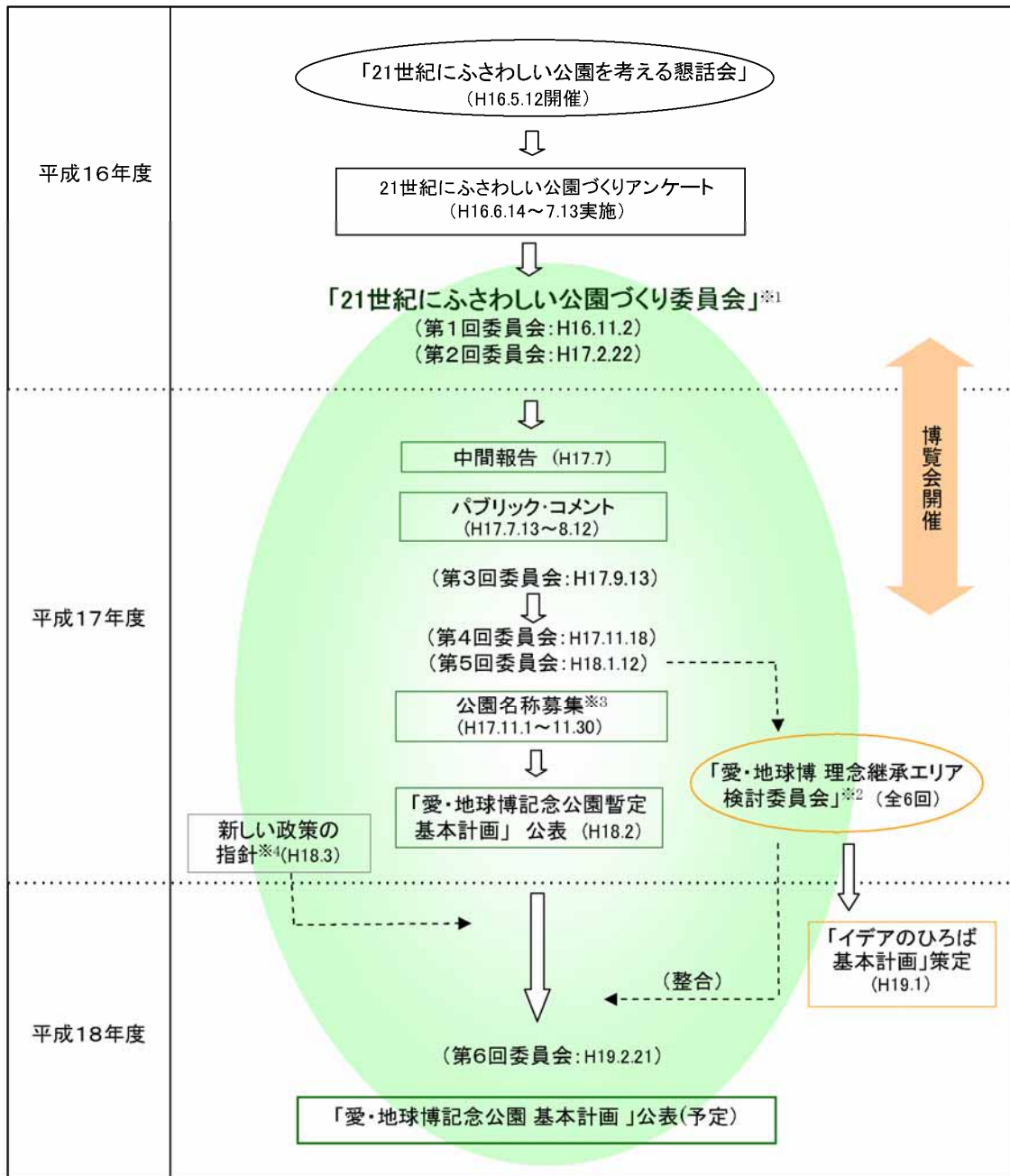
新公園の計画づくりについては、平成16年11月に「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」<sup>1</sup>を設置し、都市計画決定時に策定した4つの基本方針に基づき検討を進めた。検討は会期中であった博覧会動向についても留意をした上で、平成17年7月に博覧会後の公園計画の基本方向を示す「愛知青少年公園計画 中間報告」の公表とパブリックコメントを実施した。

また、そうした状況の中で、公園計画において「博覧会の理念と成果を継承する核となる場」と位置づけた「アイデアのひろば」については、博覧会の成功を受けて一層積極的な展開を行うこととし、平成17年11月「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」<sup>2</sup>を設置し、「博覧会の理念と成果の継承」についてより発展的に検討を進めることとした。

公園全体計画については、「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」における検討内容を踏まえ、平成18年2月に「アイデアのひろば」を検討中とした上で「愛・地球博記念公園 暫定基本計画」を策定、公表した。また、「アイデアのひろば」については、「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」での検討内容を踏まえ平成19年1月に「アイデアのひろば基本計画」を策定した。

この計画書は、これまでの「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」での公園全体計画の検討内容と「アイデアのひろば基本計画」との整合を図り、とりまとめを行った最終的な公園全体の基本計画（「愛・地球博記念公園 基本計画（案）」）である。なお、本計画書における「アイデアのひろば」の展開内容は、「アイデアのひろば基本計画」からの抜粋にて作成を行ったものである。

「愛・地球博記念公園」計画策定の流れ



- 1 委員会の委員名簿、協議経過については、P.99、100 参照
- 2 委員会の委員名簿、協議経過については、P.101、102 参照
- 3 公園名称は、正式名称：「愛・地球博記念公園」、愛称：「モリコロパーク」として決定。本報告書においては、旧公園にかかわる項目については「愛知青少年公園」を使用した。
- 4 2025 年頃までの愛知の方向性を明らかにした地域づくりの羅針盤、平成 18 年 3 月 愛知県策定

## 1.2 公園の規模・位置

本公園は、敷地面積約190ha、長久手町南東部に位置し、敷地の東部は瀬戸市と豊田市に接している。尾張丘陵の緩やかな起伏を持った緑豊かな丘陵地にあり、周辺には大学や研究機関等の集積も見られ、文化性の高い立地環境となっている。

本公園へのアクセスは充実している。公園北側に主要地方道力石名古屋線、西側に県道田初名古屋線が通る。また、愛・地球博開催に合わせてリニアモーターカーによる東部丘陵線（リニモ）が開業し、地下鉄藤ヶ丘駅を經由して名古屋市都心部から鉄道で結ばれている。さらに、日進JCT～長久手ICが開通した名古屋瀬戸道路と東名高速道路が接続し、県外からのアクセスも容易となっている。

愛・地球博記念公園の位置



### 1.3 公園の位置付け

愛・地球博記念公園は、平成14年に、都市公園（広域公園）として整備することについて、都市計画に定められた。

都市公園とは

- ・都市公園とは都市公園法に基づいて設置される公園である。
- ・良好な都市環境の形成、防災など都市の安全性向上、レクリエーション活動の場の確保、都市景観の向上を図ることなどを目的としている。

広域公園とは

- ・都市公園の種別のひとつである。
- ・一つの市町村の区域を超える広域レクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、交通の利便の良い土地に配置する。面積は概ね50ha以上である。
- ・愛知県内の広域公園、国営公園の位置は下図に示すとおりである。

一つの都府県の区域を越えるレクリエーション需要に対応、あるいは国家的記念事業として国が整備する公園

愛知県内の広域公園・国営公園

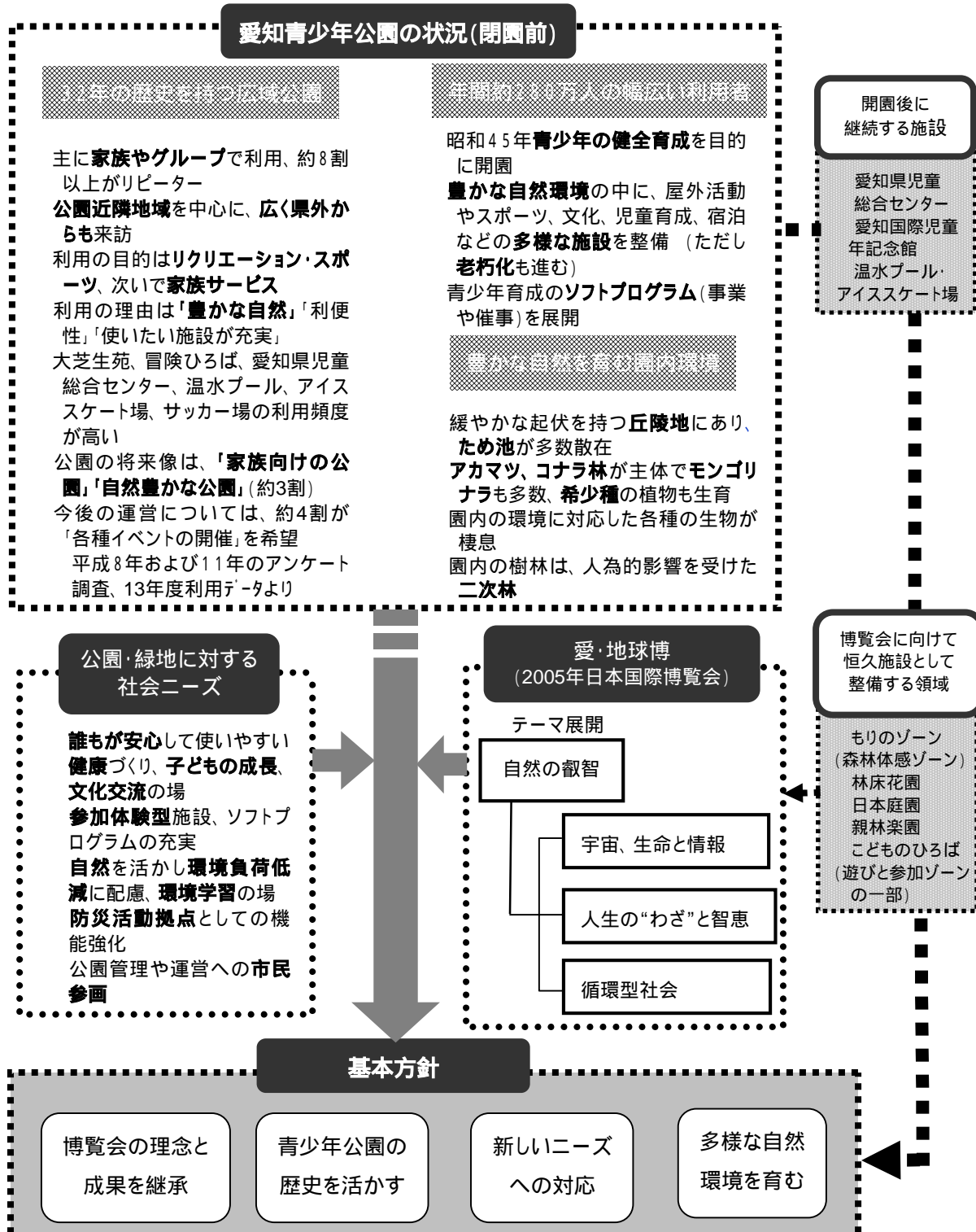


(平成19年2月現在)

## 1.4 基本方針とその経緯

本公園の整備の基本方針は、平成14年の都市計画決定に際して設定した。

閉園前32年に及ぶ愛知青少年公園の歴史や利用状況、園内環境の特性や、公園・緑地に対する社会ニーズ、愛・地球博開催等の背景を踏まえ、4つの基本方針を設定した。





## 1.5 閉園前の公園と博覧会時の状況

愛知青少年公園は、青少年の健全な育成を図ることを目的として昭和45年11月1日に開園した。緑豊かな丘陵地に囲まれた自然環境の中にスポーツ、レクリエーション、宿泊、集会等のための充実した施設を整備し、多彩なソフトプログラムを展開してきた。

約32年間にわたって多くの人々に愛されてきた本公園は、「2005年日本国際博覧会『愛・地球博』」の主会場となるため、平成14年3月31日をもって閉園した。

閉園前の公園は、恵まれた自然環境が魅力となっていた。自然地形が残る公園の東側から南側にかけては、コナラやアカマツの二次林が繁り、樹林には立地環境が乾燥地であることを示す「モンゴリナラ」が多く含まれている。また、ため池や湿地には希少性の高い動植物の生育が確認されている。公園の北側と西側は、各種施設や大広場、園路などが設置され、植生は主に芝草地と造園樹木植栽地となっている。

公園の利用者数は、昭和47年以降、年間約240万人～290万人程度を推移してきた。利用者は家族やグループを中心とするリピーターが多かった。

公園内の主な施設とその利用状況は次のとおりである。屋外運動施設としては野球場、サッカー場、陸上競技場、テニス場が設置されており、また、野外活動施設としてキャンプ場やサイクリングロードがあった。さらに、体育文化棟には文化室、会議室、体育館が設置されており、陶芸教室や絵画教室などに利用されてきた。平成6年には温水プール・アイススケート場がオープンした。野外の広場などでは、大芝生苑、冒険ひろば、児童遊園地がよく利用されていた。

その他の特徴ある施設としては、国際児童年の趣旨を継承して、児童の健全育成を目的に開設された「愛知国際児童年記念館」がある。子どもホールや童話館を備えており、人形劇、コンサート、映画会などが催されてきた。また、「愛知県児童総合センター」は、21世紀を担う児童の健全育成を総合的に推進していくための拠点として開設され、プレイアトリウムを中心に、造形スタジオ、クッキングスタジオ、サウンドスタジオなどで多彩なプログラムを展開し、年間約50万人の来館者を集めてきた。

平成14年3月31日の閉園後、博覧会の主会場としての工事が開始され、平成17年3月25日に2005年日本国際博覧会が開会された。博覧会施設の中には、「森林体感ゾーン」や「遊びと参加ゾーンの遊戯施設」など、博覧会終了後も本公園の施設として利用することを前提に整備した施設（詳細は次項参照）がある。

以下に、閉園前の愛知青少年公園と博覧会時の公園の状況を示す。

愛知青少年公園(閉園前)

**INDEX**

- バスルート
- サイクリングロード
- 一般園路

写真

陶芸教室

愛知県児童総合センター内部

温水プール

キャンプ場

アイススケート場

大芝生苑

ジャブジャブ池

冒険ひろば

サイクリング

野球

テニス

サッカークラウド

記念館

モニュメント広場

サイクリングエスタシオン

中央管理棟

大芝生苑

大芝ホール

アイススケート場

温水プール

冒険ひろば

第1キャンプ場

かえり池

かみづた池

メダカ池

第2キャンプ場

キワニの森

かめの池

第1野球場

第2野球場

第3野球場

第4野球場

第5野球場

第6野球場

第7野球場

第8野球場

第9野球場

第10野球場

第11野球場

第12野球場

第13野球場

第14野球場

第15野球場

第16野球場

第17野球場

第18野球場

第19野球場

第20野球場

第21野球場

第22野球場

第23野球場

第24野球場

第25野球場

第26野球場

第27野球場

第28野球場

第29野球場

第30野球場

第31野球場

第32野球場

第33野球場

第34野球場

第35野球場

第36野球場

第37野球場

第38野球場

第39野球場

第40野球場

第41野球場

第42野球場

第43野球場

第44野球場

第45野球場

第46野球場

第47野球場

第48野球場

第49野球場

第50野球場

第51野球場

第52野球場

第53野球場

第54野球場

第55野球場

第56野球場

第57野球場

第58野球場

第59野球場

第60野球場

第61野球場

第62野球場

第63野球場

第64野球場

第65野球場

第66野球場

第67野球場

第68野球場

第69野球場

第70野球場

第71野球場

第72野球場

第73野球場

第74野球場

第75野球場

第76野球場

第77野球場

第78野球場

第79野球場

第80野球場

第81野球場

第82野球場

第83野球場

第84野球場

第85野球場

第86野球場

第87野球場

第88野球場

第89野球場

第90野球場

第91野球場

第92野球場

第93野球場

第94野球場

第95野球場

第96野球場

第97野球場

第98野球場

第99野球場

第100野球場

博覧会時



## 1.6 博覧会前整備区域の概要

平成14年の都市計画決定の際に設定した基本方針に基づき、本公園の一部については、博覧会の会場づくりと連携しつつ、博覧会後も利用する恒久施設として平成16年度末までに整備している。

博覧会前に整備を行った主な区域は、「もりのゾーン」(博覧会時の「森林体感ゾーン」)と、「こどものひろば」(博覧会時の「遊びと参加ゾーン」)の中の「自然体感遊具」である。

### 「もりのゾーン」

「もりのゾーン」の整備の基本的な考え方は以下に示すとおりである。

<整備の基本的な考え方>

もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成

誰もが森に入って楽しめるようユニバーサルデザインされた園路や広場の整備

環境負荷低減に配慮

伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園を整備

また、「もりのゾーン」は、「林床花園」「日本庭園」「親林楽園」の3つのエリアで構成されている。

### 「こどものひろば」

「こどものひろば」の整備の基本的な考え方は以下に示すとおりである。

<整備の基本的な考え方>

既設の愛知県児童総合センター、愛知国際児童館と連携し、子どもの遊び、

自然体験学習の場を整備

自然の力や仕組みを体感する遊戯施設を整備

先行整備される「こどものひろば」の「自然体感遊具」の区域は、「森のエリア」「水のエリア」「風のエリア」の3つに分けられている。

なお、次頁以降に、各エリアの整備概要についてとりまとめた。

# <「もりのゾ-ン」博覧会前整備概要>

## もりのゾ-ン

### 基本的な考え方

- ① もりのゾ-ンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成
- ② 誰もが森に入って楽しめるようユニバーサルデザインされた園路や広場の整備
- ③ 環境負荷低減に配慮
- ④ 伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園を整備

## 林床花園

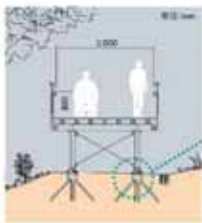
樹林地の間伐を行い、林床部や林縁部に花木や草花の自生を促し、四季折々の風景が楽しめる空間を造る。園路にはユニバーサルデザインを導入し、お年寄りから小さなお子様まで多くの方々が楽しめる森とする。



ユニバーサルデザインの園路



幹線園路エレベータ棟



幹線園路デッキ部 断面図

### ■幹線園路デッキ部

- ・間伐材を活用
- ・自然への負荷が小さい工法を採用



少ない「ピン」工法

### ■自己完結型トイレ

汚水をバクテリアで分解後、加熱して水分と残渣に分離。水分は脱臭してトイレ洗浄水などに循環利用する。(残渣は蓄積して処分)



### ■樹林地の間伐 今まで放置されていた樹林地内環境を間伐により改善



### ■「もりのゾ-ン」平面図



## 親林楽園

フィールドセンター内での環境学習や体験教室をはじめ、樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい学習し、自然環境への理解を深める。博覧会時には、「森林体感ゾ-ン」で展開される環境学習プログラムの活動拠点となった。



環境観察デッキ



フィールドセンター外観



センター内部

### ■リサイクルセンター

- ・公園内の植物系廃棄物(刈草・剪定枝葉)などを堆肥化して園内に還元。
- ・環境学習プログラムの実践の場(緑の循環の仕組みを学ぶ)

## 日本庭園

周辺を小高い山に囲まれ、内には大小の池を抱える一という自然の地形を活かし、先達の巧みな庭園技法により人のわざと自然が織りなす美を表現。また、「水」をテーマとしており、岩組や湧き水の流れなど、様々な変化する水の様子を鑑賞できる。



## 環境学習の場としての活用

樹林地内での野外活動やフィールドセンターにおける環境学習活動、四季折々の自然とのふれあい、環境負荷低減への取り組みを学ぶことなど、環境学習の場として活用。

### 博覧会プログラム「森の自然学校」

～森の中で五感と想像力を使う体験プログラム～

博覧会では、もりのゾ-ンを活用して自然とふれあう体験プログラムを展開し、参加・体験を通じて自然と人との関係を見直すきっかけを提供した。



## <「こどものひろば」(自然体感遊具) 博覧会前整備概要>

### 基本的な考え方

- ① 既設の愛知県児童総合センター、愛知国際児童年記念館と連携し、子どもの遊び、自然体験学習の場を整備
- ② 自然の力や仕組みを体感する遊戯施設を整備

### ■愛知県児童総合センター

- ・設置目的: 児童の健全育成と子育て環境づくりの推進
- ・設置主体: 愛知県
- ・開設: 平成8年
- ・施設: プレイアトリウム、発見・体験・創作ゾーンなど

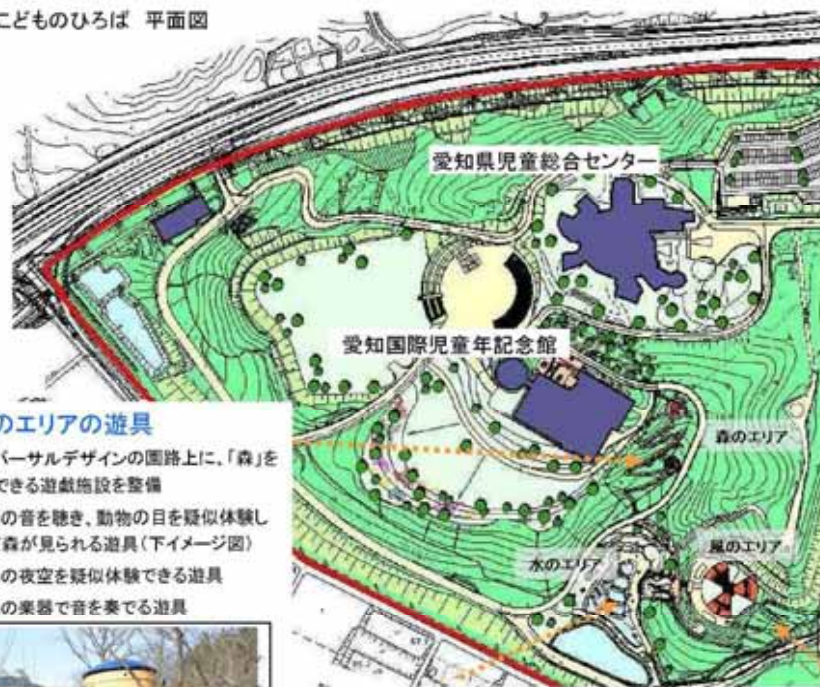


### ■愛知国際児童年記念館

- ・設置目的: 児童の健全育成
- ・設置主体: 国(厚生労働省)
- ・開設: 昭和56年
- ・施設: 子どもホール、童話館、ビデオ室など



### ■こどものひろば 平面図



### ■森のエリアの遊具

ユニバーサルデザインの園路上に、「森」を体感できる遊戯施設を整備

- ・森の音を聴き、動物の目を疑似体験して森が見られる遊具(下イメージ図)
- ・森の夜空を疑似体験できる遊具
- ・木の楽器で音を奏でる遊具



### ■水のエリアの遊具

川の仕組みを体験できる河原の再現と水で遊ぶ

- ・小石を自由に動かして山や川を作ったり、ジャブジャブ遊べる池
- ・足こぎ水車、アルキメデスの水車



### 博覧会プログラム

### 「グローイング・ヴィレッジ」

～「自然の中で、遊び、育つ」プログラムを展開～

博覧会では、木登りなどの遊びをとおして、子どもたちに自然の叡智・「グローイング(育み・育てる)」を体験してもらう場となった。



グローイング・ヴィレッジ イメージ

### ■風のエリアの遊具

このエリアのランドマークとなる遊戯施設を整備

- ・風の力が学べる風車
- ・地中と外気の温度差が体感できるチューブ

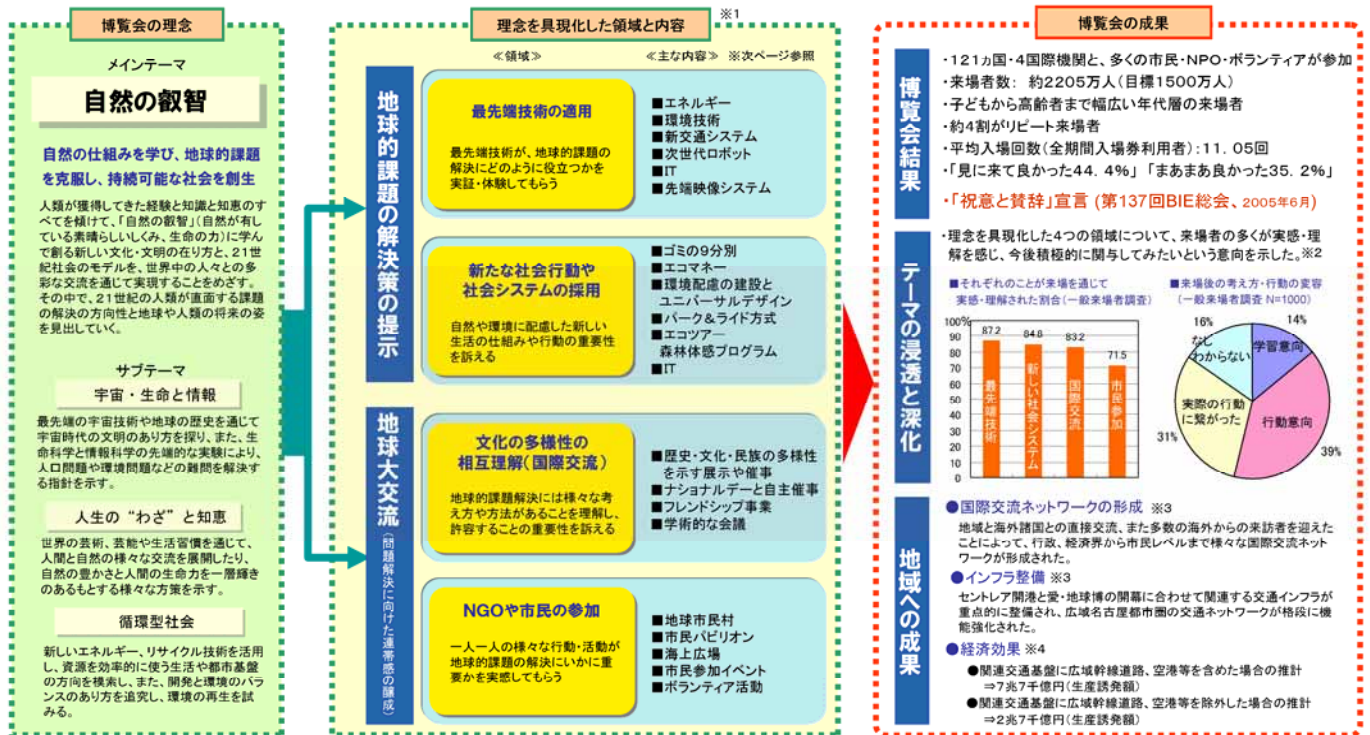


## 1.7 博覧会での取り組み

「愛・地球博」は、21世紀の新しい社会のモデルになる文明の創造と新しい文化の提案として「自然の叡智」をテーマに、人類が直面している地球的課題を克服し、持続的成長が可能な人類と自然が共生できる社会の方向を様々な方法で展開した。

博覧会には多くの国々や国際機関の他、市民・NGO/NPO・ボランティアなどが参画し、テーマの具現化と深化を行った。それらの展示や催事を通じて、来場者の多くがテーマに理解・共感を示し、考え方や行動にも大きな影響を受けた。

開催の成果としては、国際博覧会として世界から高い評価を受けるとともに、来場者数は当初計画を大きく上回る2,205万人を達成した。その8割（来場者WEB調査）から「良かった」という積極的な評価が得られた。地域社会に対しても、国際交流ネットワーク形成、インフラ整備、経済波及効果などの面で大きな成果を残した。



- 1 2005年日本国際博覧会「愛・地球博」のご報告(H17.10.20 財団法人2005年日本国際博覧会協会) および博覧会協会インターネット発表資料等より作成
- 2 (財)2005年日本国際博覧会協会「テーマの理解度・浸透度アンケート調査」(平成17年10月)の結果
- 3 「魅力と活力溢れる中部の実現」(平成17年9月)社団法人中部経済連合会
- 4 「愛・地球博の経済効果に関する評価【概要書】」(平成17年11月)株UFJ総合研究所

テーマを具現化した領域・主な内容<sup>1</sup>

## 最先端技術の適用

### エネルギー

(化石エネルギーの枯渇や地球温暖化の防止)



**新エネルギーシステム**

大規模な自立分散型の新エネルギー発電システムの実証・実験施設群、右記の各エネルギーを長久手日本館に供給



**太陽光発電**

太陽光による発電システム



**燃料電池**

会場造成時に伐採した木質チップや会場内で発生したペットボトルなどを原料に、ガス化し発電に利用



**生ゴミの活用(メタン発酵)**

会場内のレストランなどから発生する生ゴミを原料に発酵で得られたメタンガスをを使って燃料電池に活用

### 環境技術



**生分解性プラスチック**

トウモロコシなどのでんぷんと食品廃棄物を原料に作られた食器類



**ソーラーチムニー**

建物中央の大きな筒「風の塔」(ソーラーチムニー)に日が当たると、空気が暖められて上昇気流をつくり、下からの空気を吸い上げて換気ができる自然通風システム



**垂直緑化**

都心部のヒートアイランドの抑制と地球温暖化現象の低減への試みとして展示された巨大な垂直の緑化壁

### IT

ユビキタス\*\*観光ガイド実証実験



会場内のパビリオン・施設の案内、目的地までのナビゲーションなどが可能な6ヶ国語対応の最先端多機能端末を使用したユビキタス観光ガイド実験

### 新交通システム



**IMTS(無人走行)**

無人運転による非連結の隊列走行が可能な新しい交通システム

### 先端映像システム



臨場感、体感性が向上する世界初の360度全地球型映像シアター

### 次世代ロボット







チャイルドケアロボット、接客ロボット、車椅子ロボット、警備ロボット、屋外掃除ロボットなどの次世代ロボットの実証・展示



ICタグを利用

障害者等ITバリアフリープロジェクト

- 1 【「愛・地球博」の成果・評価について(テーマを具現化した領域・分野) (財)2005年日本国際博覧会協会】より作成
- 2 インターネットなどの情報ネットワークにいつでもどこからでもアクセスできる環境を指す。場所にとらわれない活動ができるようになる。

14



## 新たな社会行動やシステムの採用

### ゴミの9分別



1. 生ごみ
2. 割りばし
3. ペットボトル
4. プラスチック類
5. 紙コップ・紙容器
6. 紙類
7. 燃えるごみ
8. 燃えないごみ
9. 飲み残し水

来場者から出るごみを9種類、参加者(関係者)から出るごみを17種類に分別して回収し、会場から出されたごみの85%を資源としてリサイクルする。

### エコマネー 市民の自発的な「エコ活動」によるCO2排出削減の促進

レジ袋削減やグリーン購入等、市民の「環境配慮行動」に対し「EXPOエコマネー(ポイント)」が提供され、蓄積することで、景品に交換することや植林などの環境保全活動への寄付を行うことができる。



### エコツアー・森林体感プログラム



バックヤードツアー

バックヤードツアー: 環境技術に関心の深い官公庁・企業関係者や学生を主な対象に実施



里の自然学校

キッズ・エコツアー: 小中学生が対象。地球の将来を担っていく子供たちに、様々な環境配慮施設を見てもらい、環境学習に役立てるツアー

### 環境配慮の建設とユニバーサルデザイン



グローバルループ

グローバルループ:

起伏のある地形に出来るだけ手を加えず、会場内のため池13カ所そのまま保存し、多くのバリアフリーの配置と来場者のスムーズな移動を可能にした。



間伐材を使用したループ床材



会場造成時に伐採した木チップを舗装材に活用



自己完結型トイレ

排泄物や臭気を分解し消滅させる排水の必要が無い自己完結型トイレ



統一的にデザインされた案内誘導サイン。来場者にわかりやすいよう、ループを据り所として全体配置。

### パーク&ライド方式



交通渋滞の緩和・環境負荷軽減のため博覧会専用駐車場にマイカーなどを止めシャトルバス等にて会場に行くシステム

## 文化の多様性の相互理解(国際交流)

### 歴史・文化・民族の多様性を示す展示や催事



マンモスの展示を通じて、「地球環境の変化」あるいは「ヒトと自然の関係」などを考えるきっかけにしたマンモスプロジェクト



出展参加国の展示・催事

### ナショナルデーと自主催事



「自然の叡智」というテーマを各国の伝統や文化に即して様々に解釈し、それを各国のイベントやパフォーマンスに展開することで、それぞれの文化の多様性を観客に訴えた。

### フレンドシップ事業



大使一行を出迎える子どもたち

### 愛・地球会議等 学術的な会議

「愛・地球会議」3月開催“オープニングフォーラム”



「愛・地球会議」は万博史上初の同一テーマによるリレーシンポジウムであり、「自然の叡智」を考察し、「持続可能な社会の創造」を総合テーマに、世界の叡智である有識者や専門家が参加した。

## NGOや市民の参加

### 地球市民村



国内のNPO/NGOが海外のパートナーと組んでユニットとして参加した。「持続可能性への学び」というテーマのもと様々な分野のユニットが毎月5ユニットずつ延べ30ユニットが参加

### 海上広場



### 市民パビリオン



「市民パビリオン&海上広場」は、市民の立場で「自然の叡智」というテーマに立脚した市民プロジェクトの発表の場。国内・外から公募・決定した235のプロジェクトは、すべて市民の手により企画され実施。市民活動や環境活動の理解や共感を促進することを目標とした対話型イベントが展開された。

### ボランティア活動



市民の自主的・主体的な活動によって博覧会の運営を支え、来場者に素敵な思い出と満足感が残るような「おもてなし」を提供することを目標に展開

### 市民参加イベント

## PEACE RING 2005



愛・地球博会場全体から世界平和のメッセージを提唱するため、来場者とスタッフで長久手会場の空中回廊「グローバル・ループ」(全長2.6キロ)を囲んで巨大な人の輪を作った。

具現化に取り組んだ各国の展示例

長久手愛知県館



愛知の伝統モノづくりパワーと最先端技術のコラボレーションにより、地球温暖化という人類の危機を乗り越え、これから取り組むべき道を見つめる。地球問題を楽しく感動的に体験できる「地球たいへん大講演会」を展開

日本館（長久手・瀬戸）



医療や農水産業のさまざまな分野で活用が期待される「ナノバブル」技術の紹介。「ナノバブル」(超微細な酸素の泡が溶け込んだ海水)により魚が活性化され、淡水魚と海水魚が同じ水槽で共存が可能となることを展示

ドイツ館



バイオロジーとテクニックを組み合わせた造語「ビオニス」をコンセプトに、自然界の原理に学んだ新技術を来場者に分かりやすく具体的に示すことで、地球環境問題の解決方法を提示  
150トンのハイテク機材で構成された「ライド」と呼ばれる軌道システム。形状は水滴をイメージしており、館内各所を走行し、さまざまな風景や展示を五感で感じながら鑑賞できる体験型乗り物

マレーシア館

マレーシア館のテーマは「本当の自然・無限の調和」。ユニークな動植物を紹介した「熱帯雨林の歌」、環境系保護のための人口湿地帯に関する「命のコラス」等のコーナーがある。

バイオテクノロジーを通して環境問題に対して革新的な解決法を展示



フランス館

キューブシアターでは、傷ついた惑星・地球の旅に来館者を誘い、映像によって工業汚染、公害など地球の負の部分にも目を向けず真に地球の未来を問いかけた。また、別のコーナーでは地域集合体、企業、NGOらによって提案される「持続可能な開発」のプランが紹介された。

こうした地球の直面する問題を深く掘り下げ、地球レベルでの解決、取り組みの必要性のメッセージを発信した。



アメリカ館



「フランクリン・スピリット」をテーマに、雷から電気を取り出した発明家ベンジャミンフランクリンをホストとして、自然の神秘を解明し、グローバル経済を確立する人間の知恵と技術革新の可能性を示した。

オランダ館



限られた国土しか持たないオランダでは、持続可能な発展のために自然に介入し、水と戦ってきた歴史がある。限りある水資源と安全で豊かな生活環境とについて展示

## 1.8 愛知の地域づくりにおける役割

### 愛知の地域づくりの目標と目指すべき姿

愛知の地域づくりの目標を示す「新しい政策の指針」では、愛知の地域づくりの基本目標と目指すべき愛知の姿として以下の4つを掲げている。

愛知の地域づくりの目標：「今を越え、さらに世界で輝く愛知づくり」  
目指すべき愛知の姿：世界に貢献する産業・交流の中心あいち  
社会に役立つ人材いっぱいあいち  
健康・安心づくり県民総ぐるみあいち  
地域自立さきがけあいち

### 地域づくりにおける役割

#### 国際交流大都市圏づくりの一端を担う愛・地球博記念公園

「新しい政策の指針」では、基本目標を実現するために7つの基本課題を設定している。その中の「基本課題」において、本公園整備を主な政策の1つとして位置づけている。

- 基本課題 産業や文化を世界に発信する国際交流大都市圏づくり
- ・アジア等経済連携交流戦略 ～アジア・世界との新しい関係にトライ  
アジア等を中心に、これまでの有効提携関係を超えて、特別な経済連携関係を構築  
国際的な交流拠点性を高めるため、アジア等の企業が多数出展する特色ある見本市を定期的  
に開催
  - ・多文化共生成熟社会づくり ～共に学び、ともに暮らすために  
外国人学校の法人設置基準の緩和、インターナショナルスクール支援、プレスクールの推進など、  
外国人児童生徒の教育環境の抜本的整備
  - ・文化芸術創造の愛知づくり ～愛知発・文化芸術の創造  
愛知芸術文化センターを拠点に質の高いオペラなどを継続的に開催、新しい文化芸術を創造・  
発信する国際的な文化芸術イベントの展開、新進芸術家の育成支援
  - ・魅力あふれる世界の交流舞台づくり ～次なる大規模イベントへチャレンジ  
「花と緑」や「環境」をテーマとした大規模な国際イベントの開催をめざすなど世界中の注  
目を集めるイベント・コンベンションの継続的な誘致・開催。産業観光の展開・広域観光ル  
ートの開発
  - ・愛・地球博記念公園の整備 ～万博の感動が息づく公園へ  
自然の叡智を学ぶ場となり、また、市民の多彩な交流の場となる公園として博覧会長  
久手会場を整備

このように、国内外から2200万人以上の人々を集め、世界に「愛知」を発信した愛・地球博の跡地である本公園及びその周辺地域は、国際交流大都市圏づくりの一端を担う場として、そのテーマである「自然の叡智」の理念と成果を継承・発展するとともに、国際交流の推進に向けて地球規模でNPOや地域等と連携を図っていくことが求められる。

### 「あいち学術研究開発ゾーン」における位置づけ

愛知県では、本公園が位置する名古屋東部丘陵を「あいち学術研究開発ゾーン」と位置づけ、多くの研究・研修機関の立地を生かした頭脳拠点の形成を目指している。とりわけ、本公園周辺地区は、ゾーン全体の中核的な役割を担う地区として各種研究施設の誘致・整備を進めており、当該ゾーンの機能を発揮する上で、本公園を「憩いの場・交流の場・情報発信の場」として積極的に位置づける。

なお、中部圏における重点プロジェクトを以下に整理する。

### 愛知県周辺の主なプロジェクト

中部圏プロジェクトマップ 2007、中部開発センターを参考に作成



## 1.9 懇話会の概要

本公園の計画策定に向け、今後の取り組みを進めるための参考となる幅広い意見を頂き、今後の公園計画につなげていくことを目的とした「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」を、平成16年5月12日に開催した。懇話会の意見概要は下記のとおりである。

委員についてはP.103参照

### 意見概要

#### 市民協働を実践できる公園

今回の博覧会は、従来の「国家」「グローバル企業」というふたつのエンジンに加え、「市民参加」という3つめのエンジン（理念）が柱となっている。これは博覧会史上初めての特色であり、青少年公園の計画にも継承していくことが重要である。「市民協働」を実践できる公園であってほしい。

#### 幅広い世代交流の場

「新しいニーズ」を的確にとらえることが大切であり、ニーズを分析する必要がある。「青少年公園」の名前にとらわれずに、高齢者や社会的弱者が青少年と共に参加し、交流し、触発しあうことができる公園づくりを進めてほしい。

#### プレイリーダ・インタープリタの養成、防災教育の場

公園を利用し楽しむだけでなく、例えば、環境・生命・スポーツ・レクリエーション・自然観察などのプレイリーダーやインタープリターの教育・訓練の場として活用できると良い。公園周辺5大学との連携も考えられる。とりわけ、新しい要素として「防災」について教育・訓練できる場として活用できると良い。

#### 環境先進県・愛知にふさわしい公園

愛知県は、特に「ものづくり」における環境産業、暮らしにおける環境分野において先進県である。こうした「環境先進県」にふさわしい公園を目指してほしい。

#### 地域資源を生かしながらリラックスし癒される公園

地域にある資源（歴史、文化、産業）を活かしながら、利用者がリラックスし、癒される公園としてほしい。

#### パークマネージメント、公園経営に重心を置く

これまでのように単に公園をつくっておしまいではなく、これからは維持管理まで含めたトータルコストに視点をおきながら、パークマネージメント・公園経営に重心をおいた公園計画としていくべきである。

懇話会の様子



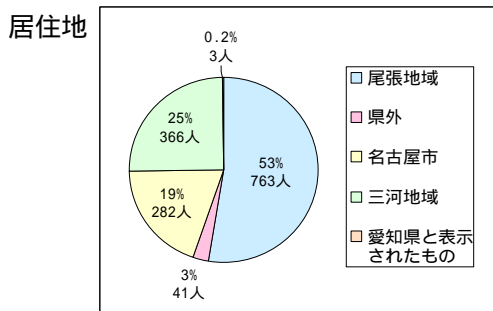
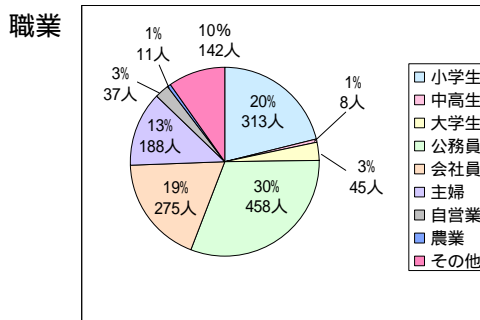
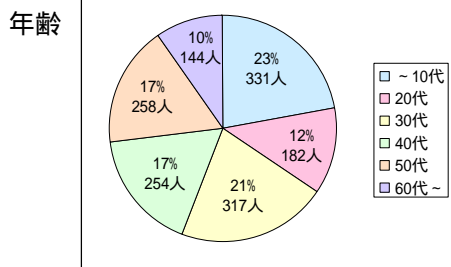
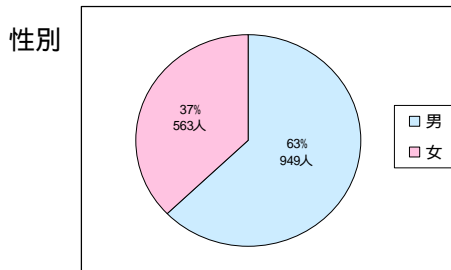
### 1.10 県民意見聴取（アンケート調査）

懇話会に続いて、幅広い県民の意向を調べるため、県民意見聴取（アンケート調査）を実施した。

希望する利用形態についての質問では、「自然の中での憩い、交流、気軽な健康づくり」への要望が多く、将来の公園像として「くつろぎ・憩いの場、人にやさしい公園」がイメージされていた。また、管理・運営への参加については「行事・イベントへの協力」に対する参加希望者が多いという結果となった。

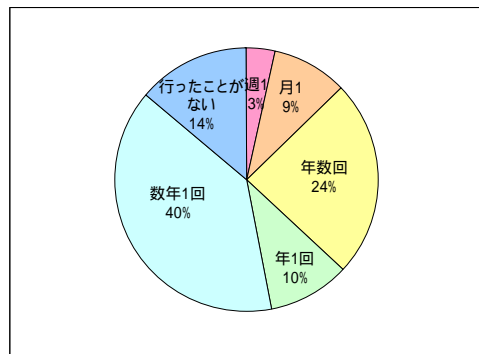
回答者数：1532人  
 調査期間：平成16年6月14日～7月13日  
 調査方法：一般 郵送、愛知県HP、小学生 小学校にて直接アンケート

利用者属性

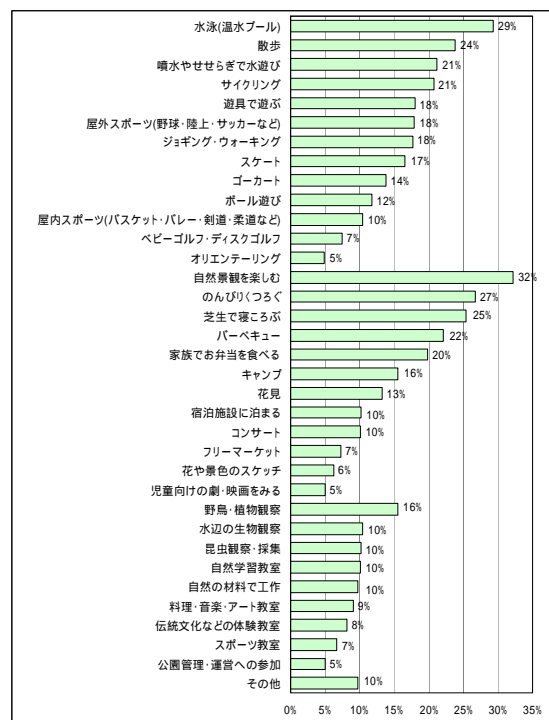


利用回数

・8割以上が利用したことがある



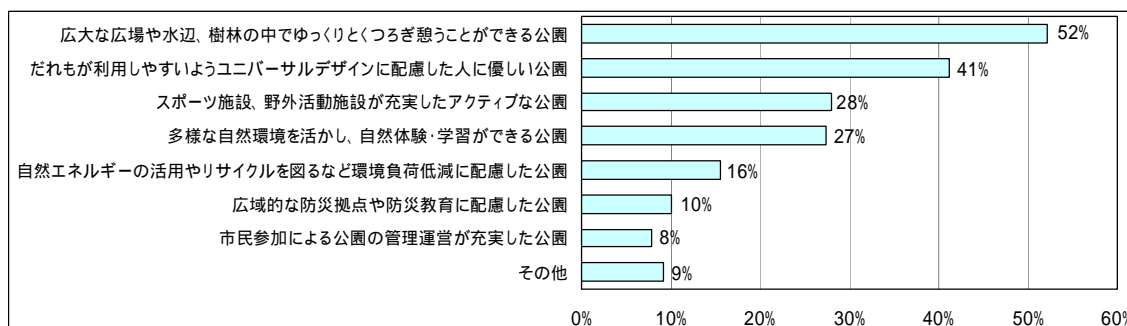
希望する利用形態（5つまで選択可）  
 ・自然の中での憩い、交流、気軽な健康づくり利用を希望している





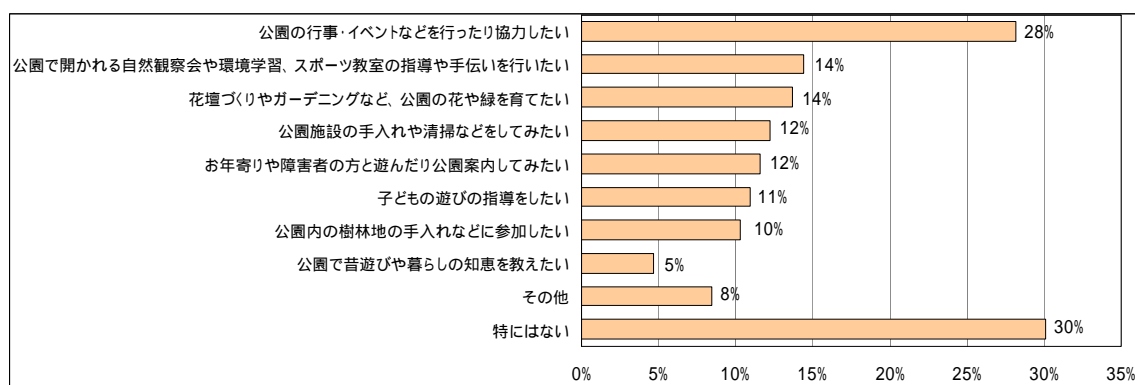
将来の公園イメージ (2つまで選択可)

- ・くつろぎ・憩いの場、人にやさしい公園をイメージしている



管理・運営への参加 (該当するもの全て選択可)

- ・行事・イベントへの協力への参加希望が多い



自由意見 (回答数842件)

- ・自然を壊さないで芝生や原っぱで自由に遊べる自然豊かな公園。(回答数223件)
- ・安全で気楽に行くことができ、老若男女を問わずのんびりくつろぎ楽しめる公園。(回答数210件)
- ・遊具遊びやスポーツ活動が出来る公園。(回答数94件)
- ・児童総合センターやスポーツ施設、キャンプ場、スケート場、サイクリングロードなど青少年公園にはたくさんの思い出があり、新しい公園にもこれまでの良さを残して欲しい。(回答数80件)
- ・万博の理念を継承し、その遺産を次世代につないでいくことが21世紀にふさわしい公園であると思う。万博で利用した施設や内容をうまく公園づくりに活かしていく。(回答数54件)
- ・公園の管理に市民が参加し、運営もNPOや学生ボランティアと共に行って欲しい。また、維持管理を含めたトータルコスト面にも留意が必要。(回答数54件)
- ・自然や環境全般などについて楽しく学んだり、体験学習できる公園。(回答数43件)

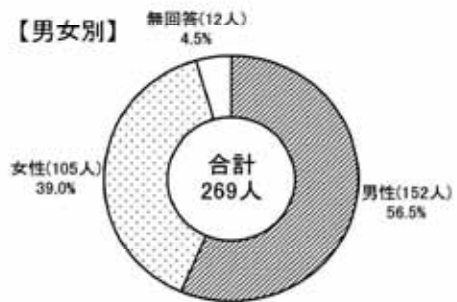
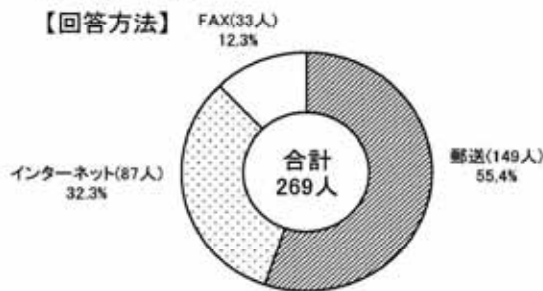
## 1.1.1 パブリックコメント

平成16年度時までの計画内容をまとめた「中間報告」に対し、パブリックコメント(県民意見提出制度)を実施し、県民の意見を募集した。

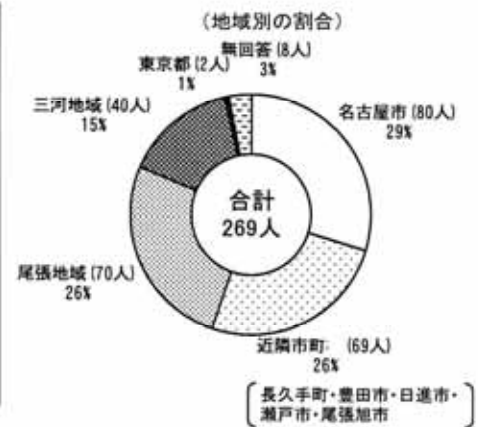
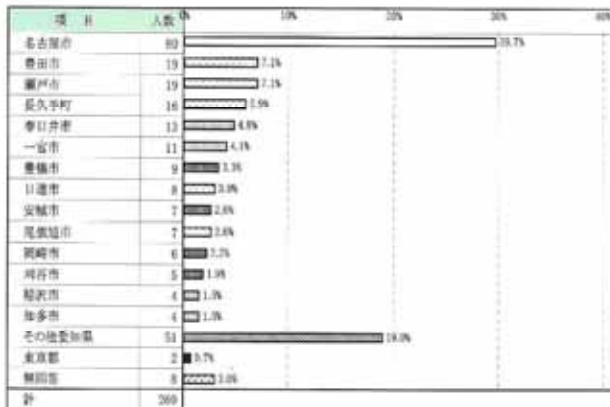
パブリックコメントの結果概要は以下のとおりである。

- 回答者数: 269人
- 調査期間: 平成17年7月13日(水)～8月12日(金)
- 回答方法: 郵送、インターネット、FAX

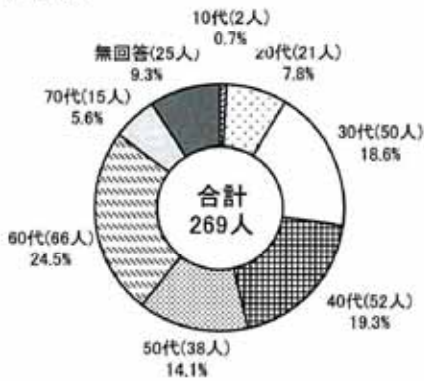
### 回答者の属性



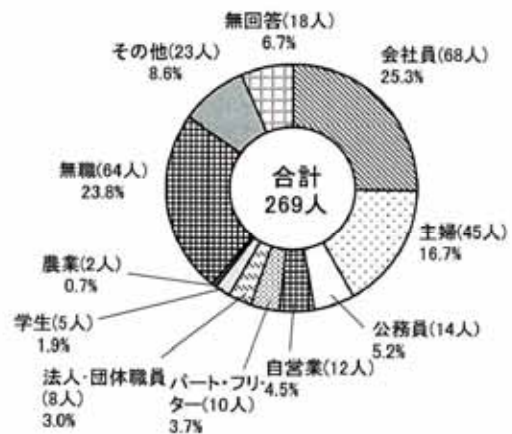
### 【居住地】



### 【年代】



### 【職業】



### 回答者数・意見数の内訳

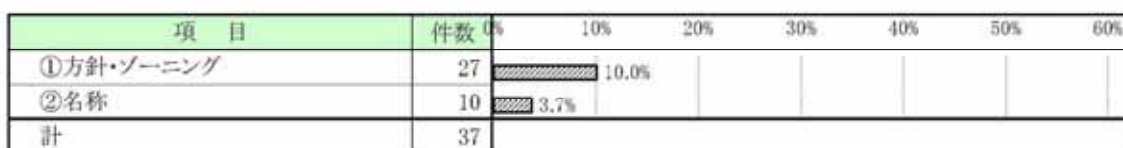
意見の項目別内訳は以下の表のとおりである。意見抽出は、重複回答によっており、各項目毎で全回答者数 269 人に対する比率を表示した。施設に関する意見が全体の約半数あり、博覧会、運営管理に関する意見が続いている。

#### ■項目別回答者数

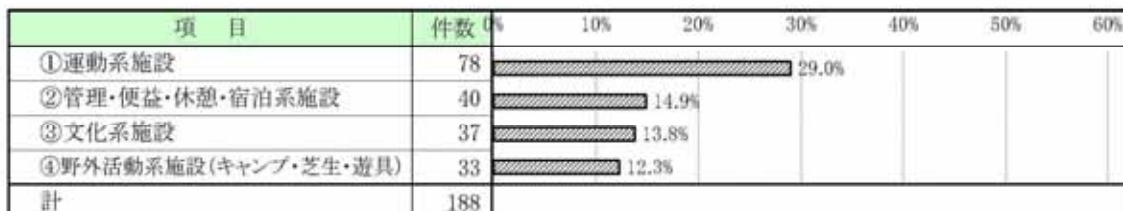


(※1、※2、※3の詳細については下記参照)

#### 1)計画全般に関する意見数内訳

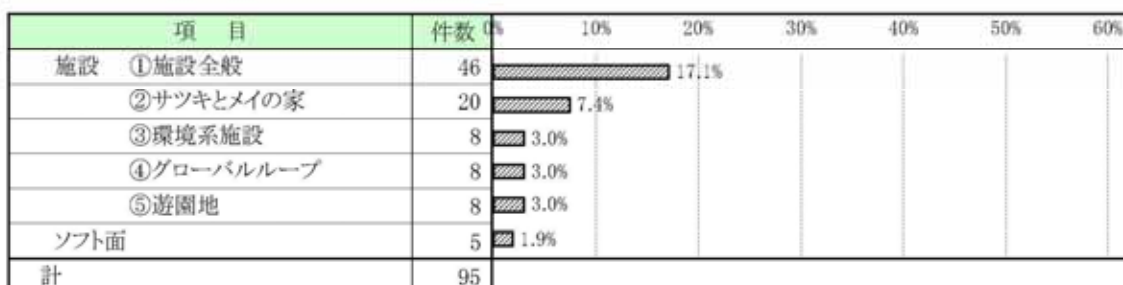


#### 5)施設に関する意見数内訳



※重複回答による集計

#### 7)博覧会の継承内訳



※重複回答による集計

### 意見内容のまとめ

主な意見と本計画における対応方針について、項目別に以下の表に整理する。

項目	細目	意見数	主な意見 同様な意見を集約し、件数を多いものから( )に計上	意見に対する対応
1) 計画全般	方針・ゾーニング	27	・「整備・活用の方針」、「ゾーニング」とも概ね賛同(11) ・自然豊かな公園、森を大切にする(5)	・中間報告で示した「整備・活用の方針」、「ゾーニング」に沿って計画を進める
	名称	10	・新たな公園名が必要(8) ・万博に因んだ名称を(2)	・新公園名称については公募により決定
2) 自然・環境配慮		56	・自然と共存し自然を楽しむ緑豊かな公園(34) ・自然身を保全、森づくり(15)	・もりのゾーン等で対応 ・新規整備区域での自然回復
3) ユニバーサルデザイン		34	・子どもから高齢者まで誰もにもやさしく魅力ある整備、企画(16) ・ゆるやかなスロープなどバリアフリーに配慮(12) ・休憩所設置(2) ・乳幼児に配慮した施設(2)	・ユニバーサル対応の施設・園路の整備 ・身障者や高齢者の方が楽しめるイベント等実施
4) 防災		8	・自衛隊の駐屯・施設には反対(3) ・環境と共生する公園を防災活動支援拠点として共用していくことは適切でない(2) ・災害時に幅広い活用(1) ・防災拠点としての活動内容をふまえた整備が必要(1) ・被災者の多い場所がよく、地理的に無理(1)	・防災時に利用する施設は樹林地を開発するのではなく、広く平坦な敷地であるスポーツ施設や駐車場を活用する ・救援隊の公園使用は災害時のみである
5) 施設	① 運動系施設	78	・サイクリング(17) ・野球場(5) ・プール(5) ・BMX(4) ・テニスコート(4) ・体育館(4)	・閉園前の利用実態や周辺整備状況等を考慮し決定 ・運動施設は複合多目的に利用できるものとする
	② 管理・便益・休憩・宿泊系施設	40	・宿泊施設(14) ・駐車場の確保、ゆったりと(5) ・雨天でも利用できる施設(3)	・宿泊施設については、閉園前の利用率が低く、運営面で困難であること、交通状況の改善を考慮し整備しない ・便益・休憩施設の充実
	③ 文化系施設	37	・文化・サークル系施設(17) ・環境系施設(14) ・健康づくり系施設(6)	・複合的な建築物として対応
	④ 野外活動系施設 (キャンプ・芝生・遊具)	33	・キャンプ場(12) ・芝生広場(6) ・幼児の遊び場(5) ・ドッグラン(5)	・敷地条件、施設の合理性等を考慮し、導入施設を決定 ・みんなのひろばやこどものひろばで対応

項目	細目	意見数	主な意見 同様な意見を集約し、件数を多いものから( )に計上	意見に対する対応	
6)	運営・管理	69	<ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理を安く(13)</li> <li>・民間やNPO、ボランティアの運営・管理への参加(10)</li> <li>・魅力あるイベントの企画(8)</li> <li>・入場料などを安く(4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト面を考慮した管理運営</li> <li>・県民参加による公園管理運営の推進</li> </ul>	
7)	博覧会 の継承 (施設)	施設全般	46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会の施設・モニュメントを残す(21)</li> <li>・パビリオン等を残す(14) (エキスポドームを残す(2)、 長久手日本館(2)、瀬戸愛知県館(2)、 大地の塔を残す(2)他)</li> <li>・博覧会記念公園、記念施設をつくる(9)</li> <li>・撤去(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念性、経済性(特に仮設構造物からの改修費)、公園として有効利用などを考慮し活用施設を決定</li> </ul>
		グローバル ループ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便利なので残して欲しい(7)</li> <li>・強度がないので残す必要はない(1)</li> </ul>	
		サツキと メイ の家	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長く残す。トロの森として充実(14)</li> <li>・運営維持に疑問(4)</li> <li>・不要(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会の人気施設であり、県民の存置要望の高い施設であることを考慮し、暫定的に活用する施設とする</li> </ul>
		環境系 施設	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習等、環境系施設を残す(5)</li> <li>・日本庭園の活用(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本庭園、森林体感ゾーンは博覧会後も公園施設として活用</li> </ul>
		遊園地	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大観覧車は里山とマッチしない、安全性に不安(3)</li> <li>・遊園地の要望(2)</li> <li>・遊園地ではリピーターは来ない(1)</li> <li>・大観覧車はシンボルとして残す(1)</li> <li>・子どもの夢の遊具として残す(1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園の「整備・活用の方針」、「ゾーニング」との整合性を考慮し決定</li> </ul>
	博覧会の継承 (ソフト面)	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会ソフト(インタープリターなど)の継承や県民参加型管理運営の継続(5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会成果を継承していくことを公園づくりの1つの方針として推進</li> </ul>	
8)その他		18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万博感想～感動した、大好評など(10)</li> <li>・カタカナ表記がわかりにくい(3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会の理念と成果を継承する場としてアイデアのひろばを設定</li> </ul>	

